



高い志のもと、「日々」キラリ」と光る活動をしている人たちがいる。  
「黄金の郷」「いわて平泉を支える、魅力溢れる」こしえるびと」のメッセージをシリーズで紹介していく。

## 地域づくりの一助に

川崎町薄衣

千葉 健司さん

### 新たな夢への第1歩

木々の彩りに季節の移り変わりを感じながら山あいを進むと、昔ながらの大きな家が現れる。現在改築中のこの家が、東京で生まれ育った千葉健司さんの亡き父の実家であり、健司さんの夢の拠点。「子どもの頃は絶対に帰って来たくなかったのに、30歳を過ぎた頃から古いものに引かれるようになった」と話す健司さん。自分の将来を真剣に考え始めた頃、自身の中で古い家の存在が大きくなり、「この地で農業を営みながら、古い家を生かして守り伝えたい」





と決意。2018年2月に仕事を辞めて川崎町に引っ越した。

### 農業と民宿

川崎の家は祖父が亡くなって以来空き家になっており、リフォームをしなければ住めない状態。一関に来て数カ月はホテルを転々とした。また、

農業をやると決めたものの経験も知識も、そして農地もない。それでも「何とでもなる。何とかしないといけない」との思いが健司さんを突き動かした。民宿の準備と並行し、JAと行政が行っている新規就農ワンストップ相談窓口で相談を重ね、就農の準備を整え、栽培にこぎ着けた。「壁だらけだと思っていた。好きだからできたのだと思う」と健司さん。自分でも気づかなかった自らの思いと向き合えた気がした。誰も知らない一関で、周囲に支えられ一つひとつ形になっていくことに感謝している。

### 民宿を拠点に

民宿は春に開業する予定で準備を進めている。

素泊まりで、希望により地域の郷土料理を作って味わえたり、農業体験などができたりする体験型の宿にしようと計画中。体験メニューを充実させるには地域の協力が不可欠であることから、地域を回って理解を求め、受け入れ体制の整備に力を入れていく。農業の魅力を発信し農家の営みを体験する場として、またさまざまな活動の拠点として、みんなが集まれる場所にしたい。周囲に支えてもらった感謝を胸に、地域に貢献し地域を盛り上げたい。歩みを進めるほどに、夢は大きく膨らんでいく。

——地域と共に歩み、大切に守っていききたい。その一助になりたい。

### PROFILE

千葉 健司さん (36)

Kenji Chiba

川崎町薄衣

1982年東京都生まれ。大学卒業後就職し、接客業や営業職を経験。2017年9月に川崎町に移住。父の実家で民宿経営を目指しながら、就農してピーマン6.5%を営む。同町で1人暮らし。



私の一品

### 民宿

空き家になっていた父の実家を民宿という新たな形で継承したいと奮闘中。体験型の民宿経営を目指し、夢の舞台が少しずつ形になっていく。